



ビジターセンターからの おしらせ

奥多摩町制 70 周年記念

奥多摩ふれあいまつりに 出展しました (2025.10.25-26)

今年は奥多摩の「野鳥」にフォーカスして展示を出展しました。町制 70 周年を記念し、ドラマ「駐在刑事」に出演した寺島進氏が観光大使に任命されました。奥多摩ビジターセンターのブースにも遊びに来てくれました。



町制 70 周年イベントが 開催されました (2025.11.16)

町制 70 周年を記念した、町の歴史の展示やワークショップが開催されました。奥多摩ビジターセンターも会場の一つとなり、大学生が作った奥多摩カルタやモルックを取り入れたスタンプラリーで賑わいました。



ち た ま か い ニ ュ ー ス

国立公園フォトコンテストが 開催されました

2025 年 6 月～ 11 月に国立公園フォトコンテストの作品応募が行われました。応募者は、Instagram で特定のハッシュタグをつけて応募をしました。テーマは「世界に伝えたい、自然の物語」。応募者自身が訪れて感じた国立公園の物語を、写真で表現されています。現在も Instagram でハッシュタグ「#nationalparks2025contest」で検索すると、すてきな写真が見られます。



金峰山からの眺め
写真：奥多摩ビジターセンター

国立公園制度 制定 100 周年 記念硬貨販売

日本の国立公園制度は、2031 年で 100 周年を迎えます。そこで造幣局から、「国立公園制度 100 周年記念貨幣」が販売されます。国内 34 カ所の国立公園ごとの絵柄のコインを 2031 年までに随時発表予定。既に発表されている大雪山国立公園では北鎮岳とナキウサギがデザインされ、国立公園の象徴的な景観とシンボルがデザインされています。秩父多摩甲斐国立公園は未発表。あなたの思う、秩父多摩甲斐国立公園のシンボルはなんですか？



アズマジャクナゲ

造幣局特設 HP→



奥多摩ビジターセンター
〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 171-1
TEL: 0428-83-2037
URL: <https://www.ces-net.jp/okutamavc/>
指定管理者: (株) 自然教育研究センター (略称 CES)

12 月 7 日 発行



X



Follow me!



Facebook



Instagram



はじめました!

奥多摩ビジターセンター通信

おくたん 16 号

昔話に登場する動物が今も暮らす奥多摩。

昔話に出てこない哺乳類は誰でしょう？



タヌキ



ニホンカモシカ



ニホンザル



ニホンジカ

おくたんでは、奥多摩を探求し、奥多摩を堪能していただくための情報をお届けします。

奥多摩・昔話の哺乳類

奥多摩は94%が森林に覆われ、43種の在来哺乳類が生息しています。人々はその中で生活していたため、昔から野生動物と近い距離で生活していました。奥多摩の人々と哺乳類、どんな付き合いをしてきたのでしょうか？奥多摩の昔話から、その関係を調べてみました！



奥多摩民話の会 (1987).
奥多摩の昔話 第1～3集
で紹介されている
昔話を調べました！

信仰のお話 哺乳類を神や神の使いとして敬います。

ニホンオオカミ、アカギツネ

十日森の
息子稲荷縁起
キツネに憑か
れた小丹波の杜
氏を救うべく、
法印がキツネと
話します。十日
森の境内にお宮
を建てることを
約束すると、キ
ツネは改心して
良い神様になり
ました。

現在でも...

目黒区十日森
稲荷神社の傍
らにキツネの祠
があります。

おいのさま=現代で言うお犬様。ニホンオオカミ。

おいのさまの糞
御岳山で見つ
かったオオカミ
の糞を、武蔵御
岳神社の従者は
恭しく扱いま
す。しかし人目
がなくなると投
げ捨てました。
実は、それは従
者の糞だったの
です。

現在では...

ニホンオオカミは明治頃
に絶滅しました。

活用するお話 狩猟の獲物、乗り物などで、哺乳類を利用しています。

ツキノワグマ、ニホンジカ、ニホンノウサギ、アカギツネ

熊をくすぐる
大丹波では、
クマの巣穴にも
ぐりこむ猟法が
ありました。中
のクマをくす
ぐって、穴の外
に出たところで
仲間の猟師が
撃ったようです。

現在では...

この猟法は危
険なため行わ
れていませ
ん。

はだし彦左衛門
檜原村に彦左
衛門という速足
の鉄砲名人がい
ました。鉄砲を
使うまでもない
時には、シカや
キツネを、素手
で捕まえること
もありました。

現在では...

マダニ感染症
増加のため素手
で動物に触るの
は非推奨です。

楽しいお話 宴会など、哺乳類の愉快的場面に遭遇します。

タヌキ、ニホンザル

ぐんぐん大尽
青梅和田村の
作男が、屋敷で
宴会をするタヌ
キを目にしま
す。宴の後には、
屋敷いっぱい
小判が残されて
いました。

現在でも...

タヌキは絶滅
の心配がない
ほどよく見か
けます。

猿おどり
日原長沢山
のワサビ田を荒
らすサルに困っ
たワサビ農家
は、サル避けに
天狗の面を吊る
します。しかし、
翌日見に行く
と、サルは面を
被って楽し気に
踊っていました。

現在でも...

サルがワサビ
田を荒らすこ
とがあるよう
です。

怖いお話 哺乳類に憑かれたり、呪われたりします。

ニホンオオカミ、アカギツネ、タヌキ

おはつ情話
おはつは鷹ノ
巣山で働く清吉
と山小屋で忍び
逢います。ある
日、清吉の不在
を知らないおは
つが山小屋を訪
ねると、別の入
夫がキツネやタ
ヌキの妖(まじな)と思
いはつを殺して
しまいました。

現在では...

科学の発展によ
り「動物のせい」
と思われる現象
は減りました。

おいのさまの
お借り出し
樵(きこり)が夜の御岳山
から無事下山す
るため、御師から白
いオオカミの像を
借りたところ、お
いのさまに憑かれ
てしまい、異様な
様子で山を駆けお
りました。

現在でも...

御岳山の家々
には、オオカ
ミの護符が見
られます。

おいのさま=現代で言うお犬様。
ニホンオオカミ。

昔話の中で、奥多摩の人々は哺乳類を、愉快的対象として見たり、乗り物や食料として利用したり、時には不思議な力を恐れたりしていました。哺乳類が身近であったからこそ、様々な状況で人々の心の中に存在していたのかもしれない。

身近に感じた哺乳類

昔話の登場回数が多い哺乳類は、それだけ人々の心に残っていたのではないのでしょうか？

調べてみると、オオカミとキツネが最も多く昔話に登場しました。反対に、ネズミやリス、カモシカは登場しませんでした。山に囲まれ、豊かな多様性を持つ奥多摩では、小型哺乳類や、奥山で暮らし人と接点の少ないカモシカはあまり印象に残らなかったのかもしれない。

昔話に登場した哺乳類の割合 (%)



変わる哺乳類

奥多摩の哺乳類を取り巻く環境は刻々と変化しています。登場回数の多いオオカミは絶滅。昔話の中でよく見られた哺乳類と人の関係、「狩猟」を行う猟師も著しく減少しました。ハンター不在もあってか、近年ではシカが急増しています。シカの食物である植物が減少すると他の動物にも影響を及ぼすため、東京都でシカ柵を設置したり、定期的に駆除を行うなど、現代の奥多摩で注目されている哺乳類の1種です。

三窪高原のシカ柵
柵内外で植生が大きく変わっています



昔話から、昔の人と哺乳類の付き合い方を垣間見ることができました。哺乳類は時に猟の獲物として糧となり、時に神の使いとして心の拠り所となり、いつも奥多摩の人の近くにいました。

これから先の奥多摩で、哺乳類とどのような関係を作り上げていくのかは、私たち次第。どんな物語を、どんな環境を残していきたいか、考えてみませんか？